

## 私の留学体験記

広島県立福山誠之館高等学校 2年 松井 美佳(まつい みか)  
留学期間 令和5年12月9日(土) ~ 12月23日(土) (15日間)  
留学先 ①Oslo Handelsgymnasium 高校 ②Amalie Skram 高校  
(ベルゲン・オスロ、ノルウェー)

私は今回初めて日本から海外へ出ました。私はこの学校に入学する前からノルウェーに姉妹校があることをパンフレットで知っていたので、今回行けたことがとても嬉しかったです。不安とワクワクが入り混じった独特な気持ちでの出発でした。

ノルウェーに着いた初日は、オスロの観光をしました。オスロの学校に行ったときにたくさんの授業を受けました。日本とは違ってスマホを使うことやイヤホンを使うこと、加えて教室の中に充電するための延長コードが置いてあったことにはとてもびっくりしました。一番自分が考えさせられたのは倫理での日本の神道についてでした。神様についての考え方やお寺や神社が身近にあることに対して疑問に思わず過ごしていたので、自分がいざ説明をしなければいけなくなったときに、自分がいかに日本のことを知らないのかを実感しました。放課後にホストファミリーの友達を含んだ6人でクリスマスマーケットに行きました。現地でできた友達とまわる買い物はとても楽しかったです。オスロのホームステイ先の家の家族はとても優しく、たくさん私を気にかけてくれました。また、ホームステイ先のお父さんが日本人とのハーフで、たまに出てくる日本語にとっても救われました。

オスロからベルゲンへは電車を使っての移動でした。フロム鉄道にも乗りました。目に入る景色すべてが真っ白でとても綺麗でした。大きな滝が寒さですべて凍っていました。凍っていても迫力がありました。

ベルゲンはオスロと違って雪ではなく雨ばかりでした。ベルゲンでのホストファミリーに会う時に、長期留学をしている同級生2人に会いました。2人とも、英語の発音が日本にいた時とは全く違っていて驚きました。学校では、博物館などたくさんの場所に連れて行ってもらいました。

学校以外で、私は一度ホストファミリーが習っているコントラバスの練習を見に行きました。そこで「ソニック」とカタカナで書かれているパーカーを着ている男の子を見かけました。日本のゲームは国を越えていることを実感しました。また、毎日のように他のホストファミリーの子たちに色々な場所へショッピングに連れて行ってもらいました。一度日本人とそのホストファミリーの計10人でUNOをしました。カードゲームは言葉がなくてもわかり会えるのでとても楽しむことができました。また別の日には、ホストファミリーの子が参加しているバレーボールのチームの練習にも参加しました。年齢や性別関係なくスポーツを楽しんでいる姿がとても良かったです。私が特に驚いたのは臨機応変に行動を変えていることです。私は、家の都合で学校のパーティーへの参加ができなくなるころでした。しかし先生に「時間の都合で参加できなくなる」とホストファミリーの方が伝えてくださり、時間の変更をしてくれました。決まっている出来事に対して無理というのではなく、代わりの案を出してくれたおかげで私達も参加することができました。

今回の留学で、私はこれまで当たり前だと思っていたことの価値観が大きく変わったと思います。私はいつも自分の意見をあまり言わず、人の意見に相槌を打つだけのことが多いです。しかし、ノルウェーではそれぞれが自分の意見を持ち、授業をはじめ色々な場面で発言していたことが特に印象に残りました。自分の意見を持ち、発言していけるようにしていきたいです。また、この短期留学がなければ関わりがなかった同級生たちや、現地の日本人の方などと話したり意見交流したりする機会ができたことにもとても感謝しています。11月にベルゲンでの私のホストファミリーの方が日本に来る予定です。もうすでに、次会えることがとても楽しみです。

